

鎌倉市景観重要建築物「湯浅物産館」

鎌倉支部 菅原浩太建築設計事務所
菅原浩太

鎌倉の若宮大路沿いに建つ「湯浅物産館」は、明治30年に湯浅新三郎により貝細工の製造加工・卸売りの店として創業され、関東大震災による焼失などを経て2回建て直され現在の形となりました。

現在の建物は、鎌倉市の景観重要建築物に指定されています。木造2階建、間口6間(約10.8メートル)、奥行11間半(約20.7メートル)という大きな建物であり、店舗のほぼ中央が吹き抜けになっており、回廊を巡らせて天窓から明るい陽射しを採り入れるというとても面白い空間構成となっています。また、1階の店舗は7寸柱が4本のみで中央に壁は無く、広い一室空間となっています。建物のファサードは「看板建築」という建築様式で、半円形の装飾窓とスクラッチタイルで構成されており、背後の小舞土壁による和風の屋敷を感じさせないような西洋風商業ビルの外観となっています。

今回、この築78年の建物の耐震補強工事と複合商業施設への全面リニューアルを鎌倉支部会員である清興建設株式会社が元請けとなり、鎌倉支部により耐震補強設計を行う形で進められました。

この建物の大きな特徴としては、前述したトップライトとそれを取り囲む回廊、1階の広い一室空間や「看板建築」ですが、その他にも細かな装飾として回廊の手摺のデザイン、回廊に面した古いガラスの入った木製戸による開放的な造り、1階の店舗天井が全面、押し出し成形による華麗な模様に入った天井パネルなどディテールも魅力に溢れていました。しかしながらそれらの魅力が活かしきれておらず、トップライトもその存在を感じさせないように下の店舗が配されてあったり、1階の天井パネルも塗装が剥げ落ちたり孔が開いたりという状態でした。ファサードのスクラッチタイルもところどころ欠けていました。

リノベーションに際して、この建物の空間構成の魅力やディテールを最大限活かしながら、新しい空間へリノベーションするというのが最大のコンセプトでした。トップライトの屋根の波板は取り払い、棟木を架けてガラスを嵌め込みました。



以前はトップライトと1階の店舗の繋がりが希薄でしたが、リノベーションに伴い1階の店舗と2階の店舗が立体的に繋がり、とても素晴らしい空間となりました。また、孔の開いた天井パネルなども奇麗に補修されました。

耐震補強工事に関しては、1階の大きな一室空間の補強として梁間方向の壁の新設が必要でしたが、店舗の中央に壁を設けたくないことから、外壁側に袖壁の耐力壁を設け、それがテナントの展示ブースと一体として違和感を感じさせないよう配慮しました。

1階の店舗の奥はオーナーの居住スペースと倉庫として使われてきましたが、店舗とカフェに生まれ変わりました。2階は回廊を中心に広い座敷がありましたが、リノベーションして「鎌倉着物スタジオ」が入りました。インテリアコーディネートはアルコデザインの小山礼子氏によりデザインされました。

非常に短い工期の中でしたが、清興建設株式会社の総指揮のもと、みんなで力を合わせる形でこのような市の景観重要建築物に指定されているような歴史的建築物のリノベーションに係わることができました。生まれ変わったこの建物で湯浅物産館の新しい歴史が刻まれていくことを楽しみにしています。

リノベーション 企画設計施工 清興建設株式会社
協力 鎌倉支部 高野、菅原、福田

